

※首都圏直下・南海トラフ等大型地震は前兆検知から発生までの日数は数日の可能性が高いですが、No1778前兆は30年の観測歴上最長継続の最大に難解な変動です。No1778前兆につきましてはPHP新書「地震予報」に記したため、読者の皆様に出版後の前兆変動の変化について続報公開しています。No1778以外の他の地震前兆につきましては本HPでは公開できません。E-mail またはFAXで配信している観測情報でのみ公開しています。本観測研究をご支援下さる皆様にNo1778以外の別の地震前兆変動の有無や発生推定内容等の観測情報を配信しています。観測情報配信の「公開実験」に是非ご参加下さい。2024.1/1発生の「能登半島地震M7.6」につきましては、2023.12/31の午前11時に、M7.3±0.5の地震が1/2±2に発生する可能性「予報」を観測情報配信参加の皆様に配信し、地震発生に間に合いました。No1778に関しては解説資料の32頁～35頁を参照下さい。※2024.8/8発生の日向灘M7.1地震は、7/27 高知観測点の複数観測装置に前兆変動極大が綺麗に観測され（前兆規模M6.1±0.5、海深補正M0.9±0.3、推定規模M7.0±0.5）、前兆極大から地震発生までの日数はプレート境界型の遅いパターンTmap=12日で発生致しました。またその後は一切大型地震が推定される前兆変動は観測されておりましたので、南海トラフ巨大地震発生の可能性は考えられないことを、毎日、高知観測点全観測基線波形を掲載して、日々配信の観測情報で配信公開致しました。皆様の本観測研究に対するご支援（情報配信参加）を賜りたくお願い申し上げます。

No1778 長期継続前兆 Stage-34が示した3/23に極大の可能性 次 Stage-35 は 4/2を示す



※No.1778は初めて体験する17年8ヶ月に及ぶ特殊な長期継続変動です。通常は地震発生となる変動が示した時期に次のステージの極大や初現が出現するという特殊な形態を示し、2008年～2026年までの間に数百日単位で30ステージが現れました。本年3月からは数日単位で同様な形で次のステージへ移行。31年間の観測歴の中で、これほど難解な変動は初めてで、過去例がなくうまく読み解けず、大変ご迷惑をおかけしておりますと、深くお詫び申し上げます。

Stage-35が示す4/2に
対応地震発生の可能性有
但し
4/2に変動出現で次ステージ
に移行の場合は続報予定

◆前情報でハヶ岳のCH32等変動は3/23の午前中を示すことを報告致しました。昨夜3/22夜、リアルタイム観測データを注視していたところ、CH14と同期した変動がCH12・21に明確に認められました。CH32の基線の特異変動は消えておりました。CH14は当初Stage-34の変動としていましたが、CH32との変動相関が認められず、保留としていました。

◆3/18から秋田観測点のA5観測装置に図4の基線のとおり、変動値の大きな特異変動が観測されておりました。E-mail/FAXでの観測情報では報告済。最近ではNo1778関連の変動はハヶ岳だけにしか出現していなかったため、別地震の可能性を考え、極大が観測されてから解析する予定でしたが、A5とCH14の変動に共通点があることに気づき、図3右側に記したとおり、影響局を調べたところ、No1778推定領域を示していることが判明。極大はStage-34が示す本日3/23午前中の可能性があると見て、本日14時までのデータで比較検証しました。結果は図4のとおりで、4/2±2を示す結果となりました。つまり、Stage-34が示した3/23に変動極大が出現した認識です。

◆Stage-35は4/2を示します。3月に入ってからのステージの中では変動観測装置数の多さ、変動の大きさ等から、最終ステージである可能性も示唆されますが、4/2に変動が出現した場合は続報します。変動出現なき場合は対応地震発生の可能性が示唆されます。

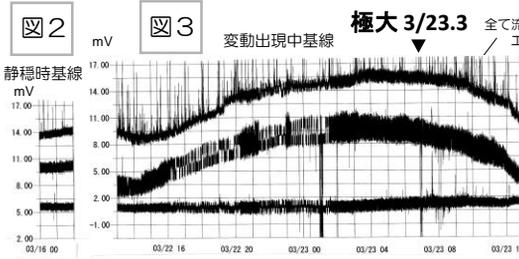


図2 図3 極大 3/23.3 全て流量・航空機イオン

極大認識時変動出現観測装置と変動出現推定影響局
ハヶ岳南麓CH12＝新島100w
ハヶ岳南麓CH14＝横浜100w
ハヶ岳南麓CH21＝飯田100w
ハヶ岳南麓CH29＝勝浦100w
ハヶ岳南麓CH32＝勝浦100w
秋田観測点 A5＝飯田100w
※特異変動検知円で作図すると重複領域はNo1778推定域を示す

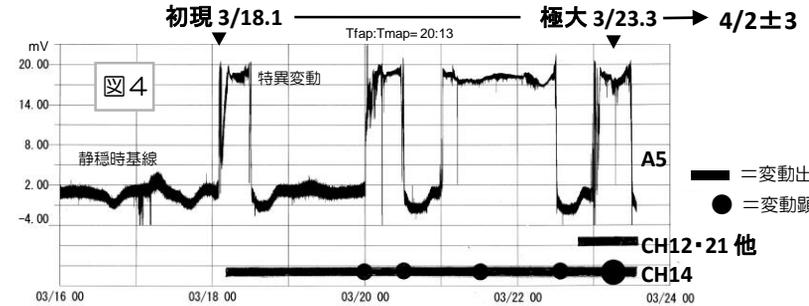
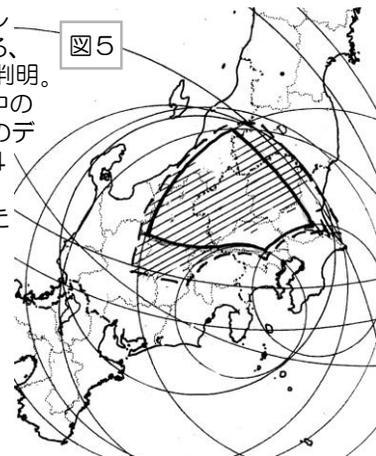


図4 図5



- 推定領域：図5の点線領域内＝大枠推定領域
図5の太線領域内＝可能性が考えやすい
図5の斜線領域＝火山近傍が考えやすい
 - 推定規模：M8.0±0.3
M7.7～8.0の可能性考えやすい
または複合地震
複合の場合はM7以上地震の断層長Lkmが
Log L=0.5M-1.8 (Utsu.)式で110～150km
程度となる様な複合地震活動の可能性
(例：M7.1±0.3+M7.3±0.3等)
 - 推定時期：2026年4月2日±3
※但し、4/2±3に変動出現の場合は、次ステージへ移行となるため、その場合は続報で修正予定
 - 推定地震種：震源浅い日本列島陸地地殻地震
 - 推定発生時刻：9時±2 or 18時±3
(複合地震の場合は当てはまらない場合有)
- ※今後噴火型変動が観測されない限り、Tmap日数が長くなったため、過去例と合わず、草津白根山付近の場合でも地震に伴う噴火の可能性は低くなりました。